

普及情報

分類名〔病害虫〕

情 3	ダイズ紫斑病に対する各種薬剤の防除効果
-----	---------------------

宮城県古川農業試験場

要約

ダイズ紫斑病防除剤として、ジフェノコナゾール剤（プランダム乳剤25）やジエトフェンカルブ・ベノミル剤（ニマイバー水和剤）が有効である。

普及対象：大豆栽培を行う土地利用型経営体
普及想定地域：県内全域

1 取り上げた理由

これまで本県のダイズ紫斑病防除で中心的に使用されてきたイミベンコナゾール剤（マネージDF）の登録が失効したことにより、他剤で対応する必要があるため無人ヘリコプターに登録のある剤を中心にその効果を確認したので、普及情報とする。

2 普及情報

(1) ジフェノコナゾール剤（プランダム乳剤25）はアズキシストロビン剤（アミスター20フロアブル）と同等の効果が見られた。やや効果は落ちるが、ジエトフェンカルブ・ベノミル剤（ニマイバー水和剤）もほぼ同等の効果が見られたことから、両剤はダイズ紫斑病防除薬剤として有効である（図1，表1）。

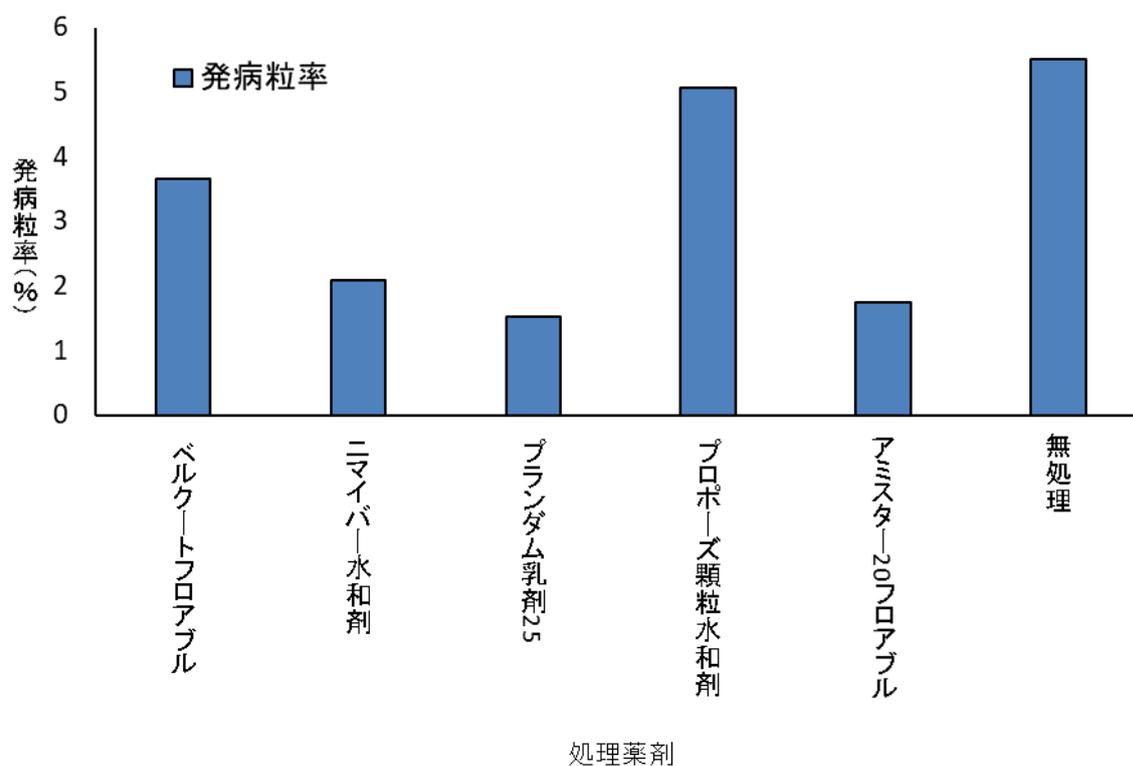


図1 供試した薬剤の発病粒率

表1 供試した薬剤

薬剤名	成分
ベルコートフロアブル	イミノクタジナルベシル酸塩 30.0% 無人ヘリコプター対応
ニマイバー水和剤	ジエトフェンカルブ 25.0% ベノミル 25.0% 地上防除のみ
プランダム乳剤25	ジフェノコナゾール 25.0% 無人ヘリコプター対応
プロポーズ顆粒水和剤	ベンチアバリカルブイソプロピル 5.0% TPN 50.0% 地上防除のみ
対)アミスター20フロアブル	アゾキシストロビン 20.0% 無人ヘリコプター対応

3 利活用の留意点

- (1) 今回の試験は品種「タンレイ」を令和元年5月23日に、古川農試内ほ場に4kg/10aで播種した。発病を促進するため紫斑病粒を播種重量の10%分混入させた。各薬剤を規定倍率で200L/10a、開花31日後及び開花37日後の2回散布した試験である。使用に当たっては最新の農薬登録情報を確認する。
- (2) アゾキシストロビン剤（アミスター20フロアブル）の連用は耐性菌発生のリスクが高まることから、他剤との体系処理を行うこと。

（問い合わせ先：宮城県古川農業試験場作物環境部 電話0229-26-5107）

4 背景となった主要な試験研究

- (1) 研究課題名及び研究期間
イ 新農薬による病虫害防除試験（令和元年度）
- (2) 参考データ
なし
- (3) 発表論文等
なし
- (4) 共同研究機関
なし